

5/13(土)

まいど！ 倫理号です、今日はくもり空です。今日は恒例の会議のバズー
大会です。恒例の卒業生～新年度もどうも落着きまして、早くから準備開始
いつもお世話になってる方々約50名位参加して下さる。今から準備開始

今週の倫理 1029号

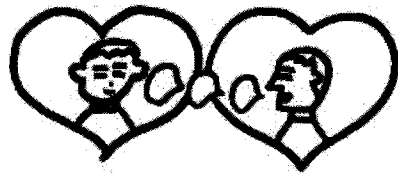
2017.5.13 ~ 5.19

幸せ運ぶアホ一鳥

五月のテーマ

聞き方話し方

「聞く耳」を 育てるレッスン



え・浅妻健司

話

し上手は聞き上手と言われ
ます。「どうしたらうまく

話せるだろう」という悩みを持つ
人は、まず人の話をよく聞くこと
に努めてはどうでしょう。聞き役
に徹していると、返答するべき話
材は必要なタイミングで浮かぶも
のです。聞き手としてのレッスン
を重ねた延長線上に、自分の思い
を表現できるようになります。

倫理法人会では『職場の教養』
を活用した活力朝礼を推奨してい
ます。輪読後にリーダーが感想を
述べ、朝礼参加者は、感想に耳を
傾けます。他者の感想を聞いてい
ると、へなるほど、そんな捉え方も
あるのか（普段の職場生活からは
窺い知れないユニークな人柄を発
見できた」といった、様々な感慨
が出てきます。

実は、この「感想を聞く」とい
うところにも活力朝礼の特色があ
ります。息を吸い込んだら自ずと
呼吸が行なわれるように、聞き役
を担うことで、自分にも何か事が
起こせるのだという気力が湧き立
ちます。他者の存在を受け止める

ことで活動する力が湧き出すので
す。毎朝の「聞く」レッスンで、
活力を充電しましょう。

聞き方のポイントを二点挙げる
と、一つ目は、ありのままに、そ
のままに受け止めること。（そんな
ことを言ったって……）とか、（話
すことと普段の態度が違うじゃな
いか）などと色眼鏡をかけた捉え
方をせず、「ただ、さながらに」聞
くことが要です。

二つ目は、敬意をもって聞くこ
と。尊敬の念を忘れず、相手を尊
ぶ心の姿勢が、聞き方上手な自分
づくりを可能にしてくれます。

次のエピソードは、人間相手の
話ではありませんが、参考になる
ので紹介します（『いのち』の輝き』
丸山敏秋著／新世書房より）。196
0年代のイギリスの女性音楽家レ
ン・ハワードは、小鳥たちと暮ら
した記録を著書に残しています。
「私はいつも私の小鳥たちに人間
同士が話すのと同じ言葉で彼らに
話しかけています。なぜこうして
きたかといえは、小鳥たちは私の
口調によって、間もなく会話の意

味が幾らかわかるようになるから
です。小鳥との交わりを楽しみだ
けでなく（中略）深い交わりをお
して小鳥たちの心をいつそうよく
理解出来るようになっていきます」
彼女は、親しい鳥たちの「言葉」
がわかったそうです。それは、鳥
たちに「友人」として接し、持て
る時間すべてを投入した、長く深
いコミュニケーションによっても
たらされたものでした。

人間同士の方が、言葉の奥に潜
む気持ちや態度するなど、かえつ
て難しいかもしれません。しかし、
たとえどのような相手の、どのよ
うな内容であっても、何かを学ば
うとする積極的な姿勢が互いの心
を開くことに繋がります。

倫理研究所の創設者・丸山敏雄
は、「ありのままに、淡々として私
情私意、我情我欲を挿し挟まずに、
たださながらに聞く、これがほん
との耳である」と指摘します（『清
き耳』。「聞く耳」を育てることが
話し方の向上も含めた、より良い
対話や心の交流も生み出していく
に違いありません。